

2014年3月期 第1四半期 決算参考データ

2013年7月31日

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

本資料に記載されている業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定要素を含んだものです。実際の業績は、経済情勢をはじめさまざまな要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おきください。

2014年3月期第1四半期 業績(前年同期比)



	2013年度 Q1 実績		2012年度 Q1 実績		前年同期比	
	金額(億円)	利益率	金額(億円)	利益率	差異(億円)	伸び率
売上高	652	—	656	—	▲4	-0.6%
売上総利益	156	24.0%	166	25.3%	▲9	-5.8%
販売費及び一般管理費	▲153	—	▲140	—	▲13	+9.3%
営業利益	3	0.5%	26	4.0%	▲22	-86.6%
経常利益	4	0.7%	26	4.0%	▲22	-83.7%
純利益	▲2	—	12	1.9%	▲15	—
受注高	772	—	1,069	—	▲297	-27.8%
受注残高	1,981	—	1,779	—	+202	+11.4%

主な増減要因

【売上高】

海外2社の連結子会社化による寄与があるも、携帯キャリア向け案件の減少等により若干の減収。

【売上総利益】

製品やサービスを中心とした売上総利益率の低下により減益。

【販売管理費】

海外2社の連結子会社化の影響が主要因。

【営業利益・経常利益】

売上総利益率の低下、販売管理費の増加により減益。

【受注高】

前年同期に受注した郵便向け大型案件の反動や、携帯キャリア向け案件の減少が主要因。

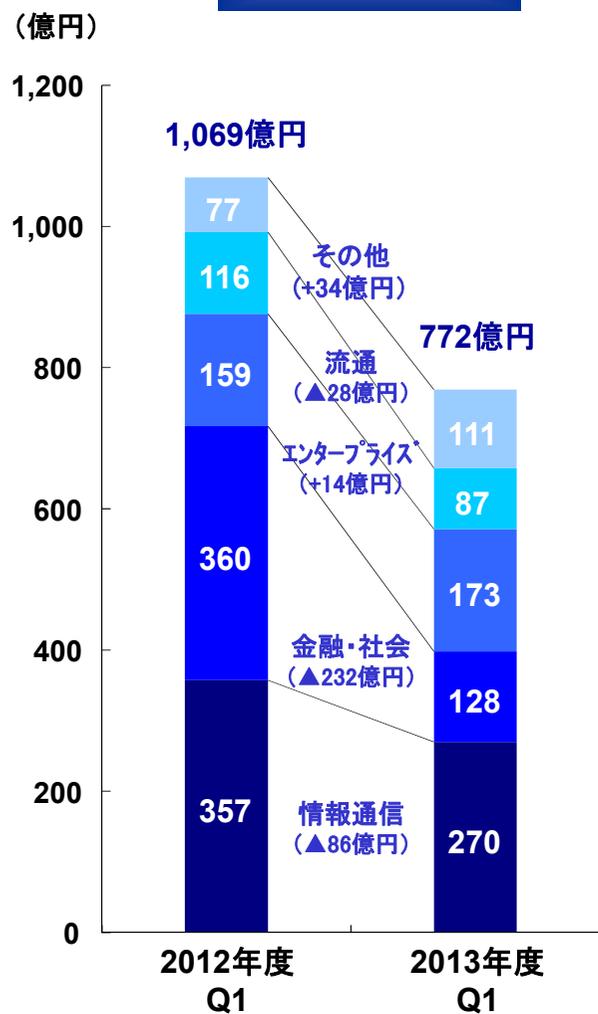
【受注残高】

複数年契約のサービス案件増加に加え、海外2社の連結子会社化が寄与し、受注残高は過去最高。

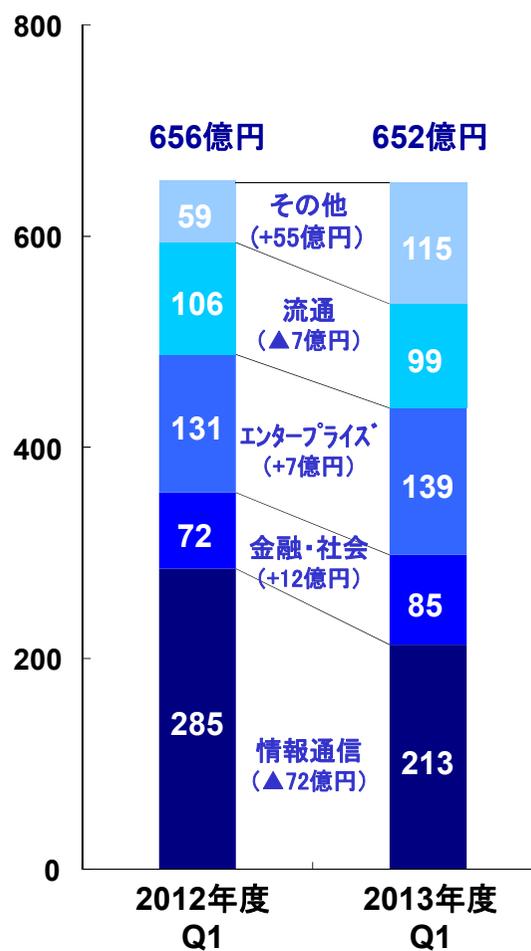
事業グループ別(前年同期比)



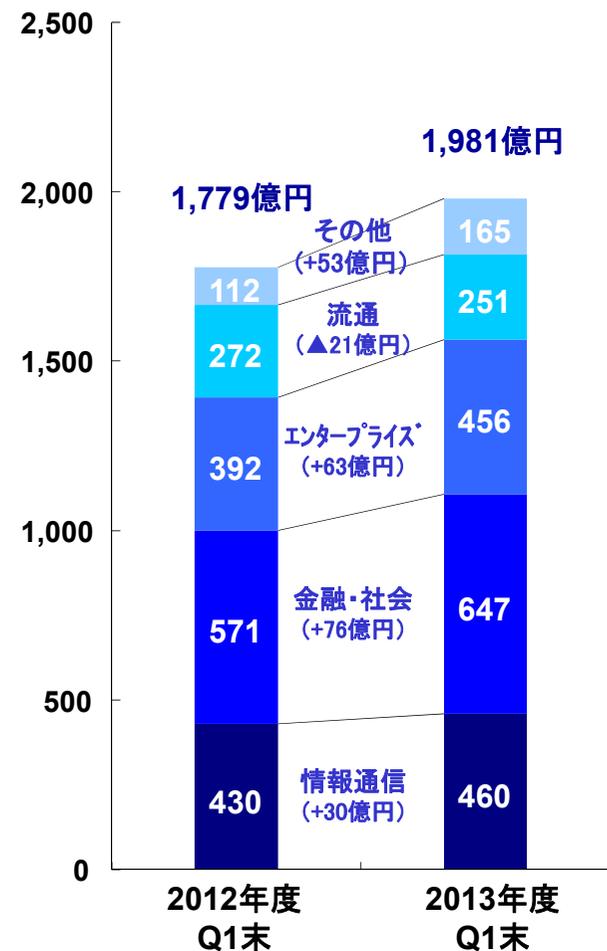
受注高



売上高

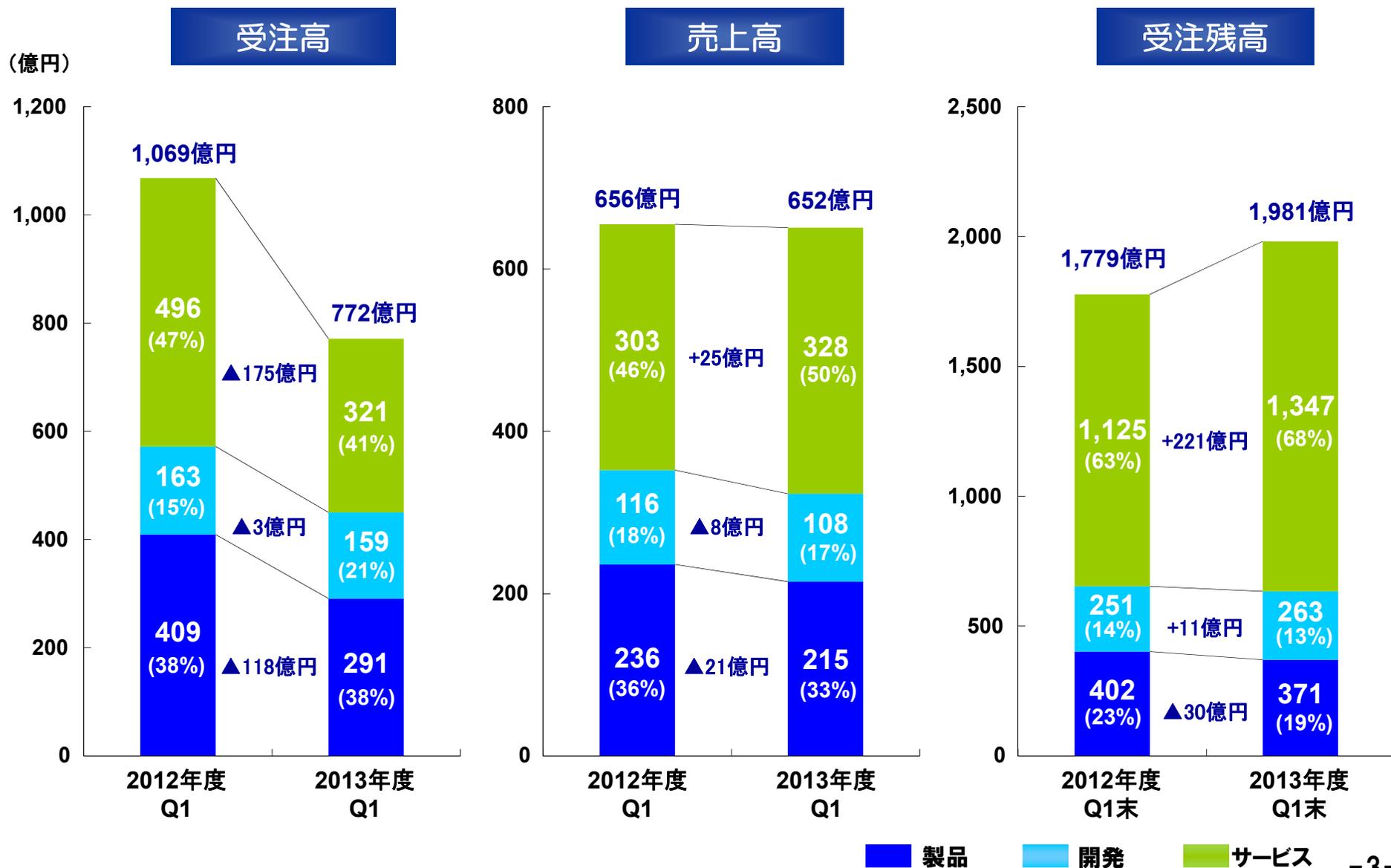


受注残高

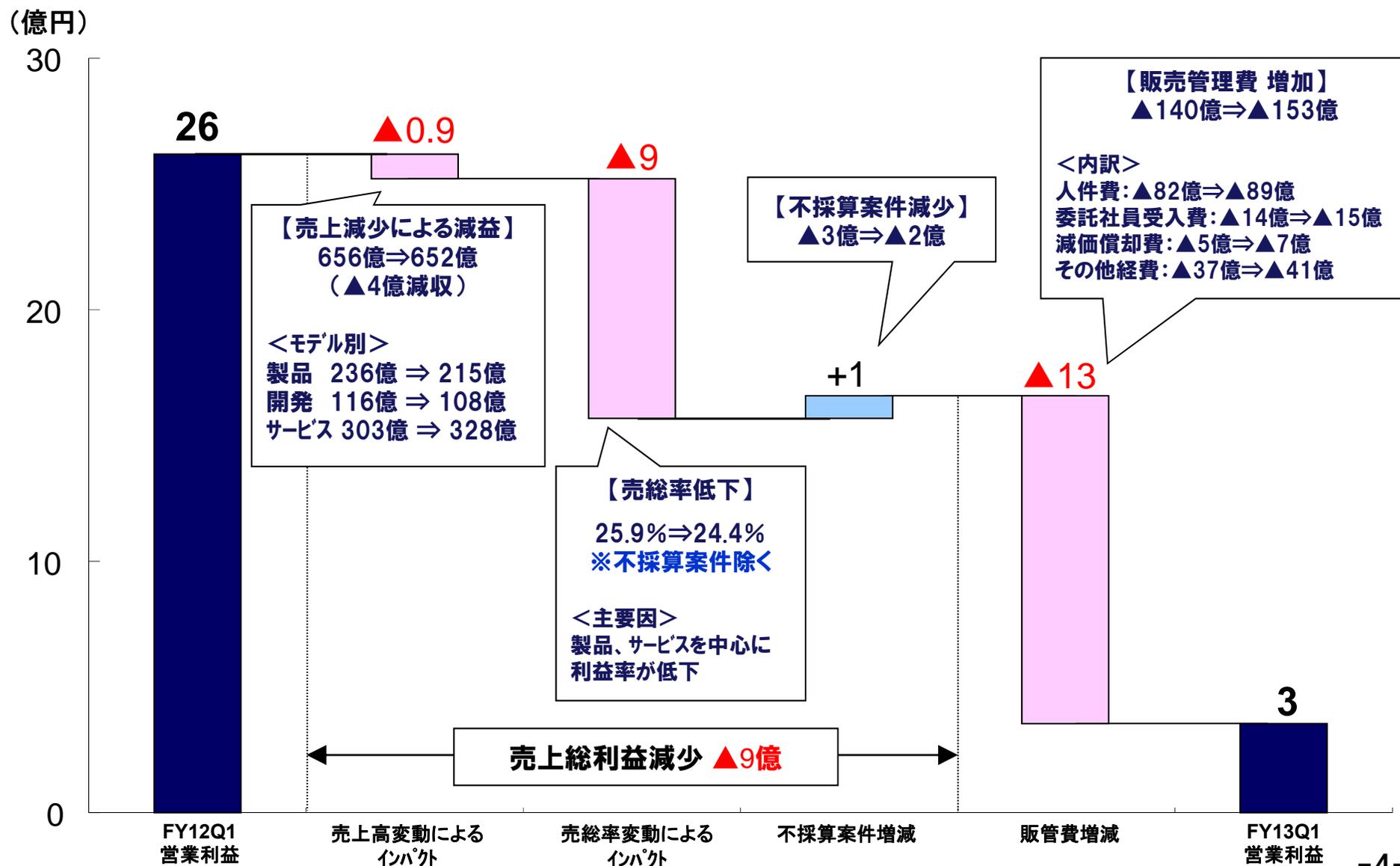


※2013年度の事業グループ組織再編に伴い、当ページに記載の2012年度第1四半期実績は、新組織ベースに組替えた値を使用しています。

ビジネスモデル別(前年同期比)



営業利益増減要因(前年同期比)



<参考> 事業グループ組織の再編

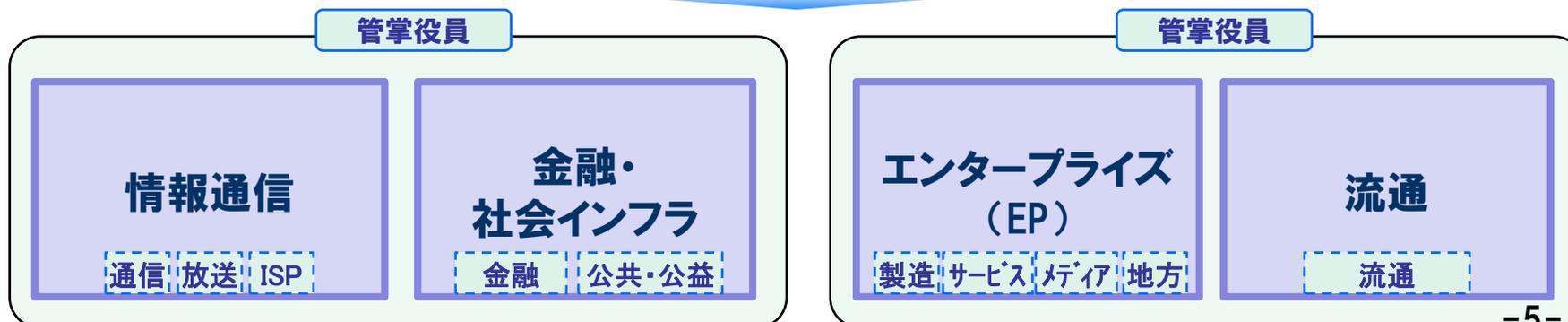
再編の目的

- ① 強みを一層強化
 - ⇒ 通信キャリア、放送、ISP系のビジネスを集約し、ネットワーク・インフラビジネスを強化。(EP⇒情通)
 - ⇒ 流通市場に関するビジネスを流通事業へ集約し、顧客深耕体制を強化 (EP⇒流通)
- ② 成長領域へ進出
 - ⇒ 公共・公益向けビジネスを集約し、大型インフラ案件への対応力強化。(情通、EP⇒金・社)
 - ⇒ 金融向けインフラビジネスの事業領域拡大。(金融⇒金・社)

再編前



再編後





CTC
Challenging Tomorrow's Changes